やまだの保育
2011 年　保育士試験 （筆記試験）　　問題・正答・「やまだの保育」の解説
＝(4)小児保健　編＝

掲載日 ： 2011 年 10 月 1 日

★ 問題文は，「やまだの保育」による複製であり，番号や数値等の表記を一部加工しています。

★ 筆記試験の問題・正答・解説の構成は，以下の通りです。

(1)社会福祉編，(2)児童福祉編，(3)発達心理学・精神保健編，(4)小児保健編，
(5)小児栄養編，(6)保育原理編，(7)教育原理・養護原理編，(8)保育実習理論編

★ 全国保育士養成協議会は，以下を「不適切問題」として発表しました。(2011 年 9 月 20 日現在)

①小児保健：問 7

（理由）「選択肢④が曖昧な表現であることから，受験者全員を正解とします。」

②小児保健：問 14

（理由）「選択肢③が曖昧な表現であることから，受験者全員を正解とします。」

(4)小児保健　編 （20 問）

問 1

次の文は，乳幼児の発育・発達の評価に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①乳幼児の身体発育評価の指標として一般的に使われているのは，平成 12 年厚生省による調査の乳幼児身体発育値をもとにしたパーセンタイル値である。
②肥満度は，学童期以降の体格を評価するのに用いられることもある。
③カウプ指数は，主に幼児期に安定しているので，栄養状態を知るために便利な体形指数である。
④DENVERⅡスクリーニング検査は，成長評価を行うための検査の代表的なものである。
⑤発達の評価は，それぞれの子どもの発達の問題を知るだけでなく，発達の特徴を理解し，適切な保育を行うために実施する。

【正答】

④：○○○×○

【「やまだの保育」の解説】

①：○

・乳幼児の身体発育評価の基準は，一般的には，厚生労働省が 10 年毎に全国調査している「乳幼児身体発育値」が使われ，現在は 2000 年の発育値，すなわち体重，身長，頭囲，胸囲のパーセンタイル値が用いられています。

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

②:○

・肥満度とは，実測体重が標準体重に対する増減（%）を示す指数です。

・肥満度（%）＝（実測体重－標準体重）÷標準体重×100

→幼児では肥満度 15%以上が肥満児，学童期以降では 20～30%が軽度肥満，30～50%が中等度肥満，50%以上が高度肥満と判定されます。

③:○

・「21 世紀出生児縦断調査（特別報告）結果の概況～2001 年ベビーの軌跡（未就学編）～」において，子どもの体型を，調査対象児のカウプ指数を算出して分類しています。

・カウプ指数＝体重（g）÷（身長（cm）×身長（cm））×10

→14 以下（やせすぎ），15～17（普通），18 以上（ふとりぎみ）

④:×

・DenverII スクリーニング検査（DDST）は，成長評価ではなく，発達評価です。1967 年に開発されたもので，日常生活の中で見られる子どものいろいろな行動を 4 分野に分類し，発達に伴って行いうる行動を同年月齢の子どもと比較して，それぞれの子どもの発達段階を判定します。2003 年 9 月に，日本人乳幼児における標準化が完了しました。日本版 DenverII は，一般の書店では販売されておらず，日本小児保健協会が主催するデンバー発達判定法，判定技術養成講習会を受けた専門家に販売する方針が採られています。

⑤:○

・発達とは，機能的に成熟していくこと，能力の増加をさすとされている。乳幼児の発達を評価し，理解を深めることにより，子どもの発達の問題を知るだけでなく，その乳幼児とより良く接することができます。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 2

次の文は，健康な乳幼児の発達に関する記述である。適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

A. 生後 3～4 か月頃，たて抱きで頭がぐらつかなくなる。

B. 生後 6～7 か月頃，何かにつかまって一人で立ち上がれるようになる。

C. 生後 9～10 か月頃，一人で走れるようになる。

D. 生後 1 歳頃，円を描けるようになる。

E. 生後 3 歳頃，三輪車をこいで動かすことができるようになる

（組み合わせ）

①AB

②AC

③AE

④BD

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

⑤CE

【正答】
③:○×××○

【「やまだの保育」の解説】
A:○
・「3～4 か月」では，立て抱きで頭がぐらつかなくなる(首すわり)いがいに，支えて立たせると両足に少し体重をかけることができ，両手を合わせて遊ぶことがあります。
B:×
・何かにつかまって 1 人で立ち上がるのは，設問の「6～7 か月」ではなく「9～10 か月」が正しい。
C:×
・走る，跳ぶ，登る，押す，引っ張るなど全身を使う運動を取り入れた遊びや，つまむ，丸める，めくるなどの手や指を使う遊びを楽しむのは，設問の「9～10 か月」ではなく「2 歳」が正しい。
D:×
・丸を描くのは，設問の「1 歳」ではなく「3 歳」が正しい。
E:○
・「3 歳」では，三輪車をふんで動かしたり，ぶらんこに立ってのることができます。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 3
次の文は，平成 20 年の日本の「人口動態統計」に関する記述である。最も適切な記述を一つ選びなさい。

①妊産婦死亡率は，出産 10 万対 9.2，出生 10 万対 9.6 であった。
②乳児死亡率は，出生千対 2.6 であった。
③合計特殊出生率は，1.66 であった。
④出生数は，1,314,006 人であった。
⑤全人口は，前年比約 50 万人の増であった。

【正答】
②:×○×××

【「やまだの保育」の解説】
①:×
・「人口動態統計（死因別妊産婦死亡数及び死亡率の推移 （1980，1985，1988～2009））」によれば，妊産婦死亡とは，妊娠中または妊娠終了後満 42 日未満の女性の死亡のことをいいます。2007 年の

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

妊産婦死亡率は 3.1 であり，直接産科的死亡率(2.7)と間接産科的死亡率(0.4)に大別されます。
②:○
・「2008 年 人口動態統計(確定数)の概況」によれば，2006 年～2008 年は 2.6(出生千対)でした。
③:×
・「2008 年 人口動態統計(確定数)の概況」によれば，合計特殊出生率は 1.37 で，前年の 1.34 を上回り，3 年連続で上昇しました。したがって，設問の「1.66」は誤りです。
④:×
・「2008 年 人口動態統計(確定数)の概況」によれば，出生数は 109 万 1156 人で，前年の 108 万 9818 人より 1338 人増加し，出生率(人口千対)は 8.7 で前年の 8.6 を上回った。したがって，設問の「1,314,006 人」は誤りです。
⑤:×
・「2008 年人口動態統計の年間推計」によれば，2008 年 10 月 1 日現在の推計日本人人口は 125,988,000 人であり，2007 年より 17 万 7 千人減少しました。したがって，設問の「前年比約 50 万人の増」は誤りです。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 4
次の文は，「保育所保育指針」第 5 章「健康及び安全」の 4「健康及び安全の実施体制等」の一部である。(A)～(E)にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

(1) 全職員が健康及び安全に関する共通理解を深め，適切な(A)と(B)の下に年間を通じて計画的に取り組むこと。
(2) 取組の方針や具体的な活動の企画立案及び保育所内外の(C)の業務について，専門的職員が担当することが望ましいこと。栄養士及び看護師等が配置されている場合には，その専門性を生かして業務に当たること。
(3) (D)と常に密接な連携を図るとともに，保育所全体の方針や取組について，周知するよう努めること。
(4) 市町村の支援の下に，地域の関係機関等との日常的な(E)を図り，必要な協力が得られるよう努めること。

(組み合わせ)
A・・・B・・・C・・・D・・・E
①連絡・・・実行・・・連携・・・嘱託医・・・協力
②連絡・・・協力・・・協力体制・・・嘱託医・・・連絡調整
③分担・・・協力・・・連絡調整・・・保護者・・・連携
④分担・・・実行・・・協力体制・・・嘱託医・・・連絡
⑤対応・・・分担・・・連絡調整・・・保護者・・・協力

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

【正答】
③:××○××

【「やまだの保育」の解説】
◎「保育所保育指針解説書」-「第5章「健康及び安全」-「4　健康及び安全の実施体制等」からの出題（p169）

③:○（A:分担，B:協力，C:連絡調整，D:保護者，E:連携）
「(1)全職員が健康及び安全に関する共通理解を深め，適切な【A:分担】と【B:協力】の下に年間を通じて計画的に取り組むこと。」
「(2)取組の方針や具体的な活動の企画立案及び保育所内外の【C:連絡調整】の業務について，専門的職員が担当することが望ましいこと。栄養士及び看護師等が配置されている場合には，その専門性を生かして業務に当たること。」
「(3)【D:保護者】と常に密接な連携を図るとともに，保育所全体の方針や取組について，周知するよう努めること。」
「(4)市町村の支援の下に，地域の関係機関等との日常的な【E:連携】を図り，必要な協力が得られるよう努めること。」
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問5
次の文は，生後3か月児の健診で頭囲が大きめであることを指摘された時の乳児の頭囲に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①他の身体計測値（体重，身長，胸囲）も大きめであれば，身体的にバランスがとれているので心配ないことが多い。
②頭囲のみ特に大きめであれば，脳腫瘍や水頭症の可能性があり，早期診断・早期治療が大切である。
③頭囲が大きめであれば，1週間に1回くらい頭囲を測定して急に大きくならないことを確かめたい。
④必要に応じてCTスキャンなどの検査を行うことがある。
⑤新生児仮死の後遺症としての脳性まひでは，頭囲が大きくなる。

【正答】
⑤:○○○○×

【「やまだの保育」の解説】
◎以下は，新テキストの抜粋(引用)である。(p41)

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

(1)大きい頭囲

頭囲が大きい場合は，脳腫瘍や水頭症の早期発見が大切であり，大泉門の状態をよく診たり，他の神経系の症状の有無に注意しましょう。ほかに症状がない場合，1週間に1貝くらい頭囲を測定して急に大きくならないことを確かめたり，必要に応じて CT スキャンなどのエックス線検査を行います。

(2)小さい頭囲

頭囲が異常に小さい場合は，新生児仮死の後遺症としての脳性まひや小頭症，または頭蓋骨の縫合が早期に閉鎖する狭頭症のことが多い。前者は，新生児期から専門医が経過観察していることが多い。狭頭症は，放置すれば次第にいろいろな神経症状が出現してくるので，早期に発見して脳外科的な治療を行います。

①:○

・上記(1)の通りです。

②:○

・上記(1)の通りです。

③:○

・上記(1)の通りです。

④:○

・上記(1)の通りです。

⑤:×

・上記(2)の通りです。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 6

次の文は，脳の発育・発達に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①脳幹は，生命の維持に必要な心臓，呼吸，体温調節などの機能をつかさどっており，出生時にほぼ完成している。

②脳の重量は，生後急速に増加して，3 歳で成人の約 80%，6 歳で約 90%に達する。

③乳幼児期の脳の重量の増加は，主として脳神経細胞の数の増加による。

④脳神経細胞からでている突起（軸索）は，情報の受け渡しを担っている。

⑤軸索は，髄鞘形成によって，情報をより早く，より正確に伝えるようになる。

【正答】

③:○○×○○

【「やまだの保育」の解説】

①:○

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

・人間の脳は，おおまかに上層の大脳新皮質，中層の大脳辺縁系，下層の脳幹の 3 層からできており，脳幹は，生命の維持に必要な心拍，呼吸，体温調節などの機能を司っており，出生時にほぼ完成しています。

②:○

脳の重量は，出生時に約 350gで成人の約 25%であり，出生後に急速に増加し，3 歳で約 80%，6 歳で約 90%となります。

③:×

・約 140 億個といわれる大脳新皮質の脳神経細胞は，出生時にほぼ揃っていて，出生後には増えない。脳の重量の増加は，グリア細胞の増加と脳神経細胞どうしの連絡網（神経回路）が密になるためです。

④:○

・脳神経細胞からでている突起（軸索）が，情報の連絡網の役割を担い，一つひとつの脳神経細胞の役割は，情報の受渡しです。

⑤:○

・軸索は，グリア細胞が作る髄鞘という膜をかぶることにより，情報をより早く，より正確に伝えるようになります。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 7

次の文は，乳幼児の生理機能の発達と保育に関する記述である。最も適切な記述を一つ選びなさい。

①乳幼児では，成人と比べて体重当たりの体表面積が大きいため，低体温になりやすいので，成人より 1 枚多めの衣服を着せるように心がける。

②3 か月頃までの乳児では，鼻呼吸が中心であるため，鼻孔をふさがないように注意する。

③脈拍数は，年齢が低いほど多く，乳児では 150 を超えるのが普通である。

④乳幼児では，成人に比べ体水分量が多く，乳児では約 70%，幼児でも約 60%であるため，乳児の 1 日の体重 1kg あたりの必要水分量は，成人の約 2 倍である。

⑤母親から受け継いだ受動免疫は 1 か月頃でなくなるので，自身で免疫物質をたくさん産生できるようになるまでは，人ごみへの頻繁な外出はさけるようにする。

【正答】不適切問題につき，全員正解となった。

（理由）「選択肢④が曖昧な表現であることから，受験者全員を正解とします。」

【「やまだの保育」の解説】

◎乳幼児の生理機能は，脈拍数（心拍数）は多く，呼吸数は多く，体温は高め，血圧は低めで，体水分量は多いといわれる。

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

①：×
・子どもは低年齢なほど，新陳代謝が盛んで運動も活発であるため，乳幼児では体温は高めです。体温(℃)は，乳幼児では 36.0～37.4 で，成人では 35.5～36.9 です。
②：×
・成人は胸腹式呼吸ですが，乳幼児は腹式呼吸で，鼻腔からの呼吸（鼻呼吸）が中心ですので，鼻孔をふさがないように注意する必要があります。何らかの原因で，鼻閉が生じると，片側性の鼻閉でも，重篤な呼吸困難を来す可能性があるといわれています。なお，7～8 歳ころから胸式呼吸が中心になると言われています。したがって，「3 か月頃までの乳児」は「乳幼児」が正しい。
③：×
・子どもは低年齢なほど，新陳代謝が盛んで運動も活発であるため，脈拍数（心拍数）・呼吸数が多い。脈拍数（毎分）は，乳児では 120～140，幼児では 80～120 で，成人では 60～80 です。
④：「表現が曖昧」とされた。
（以下は「やまだの保育」の解説）
・おそらく，設問の「乳幼児では，成人に比べ体水分量が多く・・・・幼児でも約 60%である」および「成人の約 2 倍である」の両方を「曖昧な表現」としたのだと思います。試験直後から，問 18 と同様に，「不適切問題ではないか」と話題になっていました。
・一般に，成人は体重の 60%が水分であるが，新生児は 80%，乳児は 70%，幼児 65%が水分であると言われています。また，子どもは体の中の水分含有量が多いため，乳幼児は脱水になりやすい。子どもは体重当たりの必要水分量が多く，乳児は体重 kg 当たり 150cc ぐらい，1 歳で 100～120cc，3 歳で 100cc ぐらいが必要ですが，大人は 30～40cc が必要です。
⑤：×
・受動免疫（母子免疫など）では，胎盤を介して胎児内に移行し，出生後減少するが，生後半年間くらいは種々の感染症を防止します。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 8
次の文は，人の免疫系に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①免疫系は，外界からの侵入物を排除したり，体内にできる異物を処理したりして，生体の防御機構に関与している。
②免疫系が働くことによって，生体にとって必ず有利な結果をもたらす。
③麻しんなどに罹り，そのウイルスを免疫系が記憶すると，再度感染しても速やかにウイルスを処理するため，通常二度と麻しんなどに罹らない。
④もともとは自分の細胞であっても，がんのようにその性状を変化したものに対して，免疫系はそれを排除する。
⑤免疫系を構成する成分は，おおまかにマクロファージ，リンパ球，好中球などの細胞成分と，抗体や

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

補体などの液性成分からなる。

【正答】
②:○×○○○

【「やまだの保育」の解説】
◎免疫系は，生まれつきもっている「自然免疫系」と，もう1つは，体が病原体などとと闘うことで得られる「獲得免疫系」があります。「自然免疫系」は，外界からの侵入物を排除したり，体内で変異した細胞を破壊したりする役割を，「獲得免疫系」は，闘った病原体の情報を記憶しておいて，次に侵入してきた時に，素早く抗体を作って防御する役割をもっています。麻しんなどにかかり，再び感染しても2度とかからないのがこれにあたります。細胞成分（マクロファージ，リンパ球，好中球など），液体成分（抗体・補体）から構成されています。

①:○
・上記解説の通りです。
②:×
・「生体にとって必ず有利な結果をもたらす」は，カビの生えそうな過去の手法になっている「必ずと言い切る選択肢は誤りである」を使った設問です。
③:○
・上記解説の通りです。
④:○
・上記解説の通りです。
⑤:○
・上記解説の通りです。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 9
次の文は，小児の生活習慣病予防のための食生活や食習慣に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①料理を大皿に盛るのは避け，各自の必要な分を適切に食べられるようにする。
②外食や加工食品は，栄養や味のバランスを考えて食事の中に適宜取り入れる。
③塩分をひかえ，食材のおいしさを生かして，薄味に慣れさせる。
④朝食，昼食，夕食，おやつなど，毎日ほぼ決まった時間に食べるようにする。
⑤年少児では，家族や仲間と一緒に食べると集中できないので，なるべく一人で食べさせる。

【正答】

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

⑤:○○○○×

【「やまだの保育」の解説】
◎日本の食生活は，食の外部化率の上昇に伴い，生活習慣病も増加する傾向にあります。2006 年より，メタボリックシンドロームに関する対策や情報が提供するようになって，国民にも周知されるようになりました。
◎食育推進基本計画は，食育基本法第 16 条に基づき，「食育の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため」に，2006 に食育推進会議によって策定されました。第 2 次食育推進基本計画は，2006 年度から 2010 年度における評価を踏まえて作成され，2011 年から 2015 年までの 5 年間についての施策等を定めたものです。第 2 次食育推進基本計画は，「周知」から「実践」へをテーマに，(1)生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進，(2)生活習慣病の予防及び改善につながる食育の推進，(3)家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進，を重点課題として掲げ，食育の推進としての新たな目標の一つに，「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加」が挙げられました。

①:○
・食卓には大皿に盛り付けて各自取り分けるのではなく，子どもの分を別皿に分けて盛り，できるだけ一緒に食べることが大切だといわれています。
②:○
・外食・中食・コンビニ弁当・ファーストフードは野菜・いも・大豆類・キノコ・海草などがとりにくいので，心がけてとらないと1日の分量がとれため，これらの食品が含まれた料理を2，3皿とるとバランスがよくなるといわれます。
③:○
・「日本人の食事摂取基準（2010 年）」によれば，食塩相当摂取量の目標値が男性は 1 日 9g 未満に，女性は 7.5g 未満です。しかし，現在の日本人の平均摂取量は約 11g です。濃い味に慣れると薄味に戻すのは難しいといわれています。一般的に，みそ汁の濃さで，そのご家庭の味付けが判断できるといわれます。小児においても，少しずつ薄味に慣れるようにすることがいいといわれています。
④:○
・食生活のリズムを狂わせないようにするには，おやつや夜食を食べる時間を決めることが第一とされています。お菓子などの「だらだら食べ」は最大の問題で，食べる意欲が育つよう食事のリズムを作ることが大切です。
⑤:×
・食事の準備や調理に携わることや家族や仲間と一緒に食べる楽しさを味わうことが大切です。また，上記の第 2 次食育推進基本計画では，「共食の回数の増加」を掲げています。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 10

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

次の疾患は，節足動物媒介感染症である。「蚊」が媒介しない感染症の組み合わせを一つ選びなさい。

A. マラリア
B. デング熱
C. ライム病
D. 西ナイル熱
E. 発疹チフス

（組み合わせ）
①AC
②AD
③BD
④BE
⑤CE

【正答】
⑤：○○×○×

【「やまだの保育」の解説】
◎節足動物媒介感染症は，主に次のような疾患（媒介）が含まれる。ウエストナイル熱【蚊】，回帰熱（マダニ），Q 熱（マダニ），黄熱【蚊】，クリミア・コンゴ出血熱（マダニ），ダニ媒介性脳炎，ツツガムシ病（ツツガムシ），デング熱【蚊】，日本紅斑熱（マダニ），日本脳炎【蚊】，発疹チフス（シラミ），ペスト（ノミ），マラリア【蚊】，ライム病（マダニ） 。

C：×
・ライム病は，マダニに媒介される疾患です。欧米では年間数万人規模でライム病患者が報告されていること，さらにその報告数も年々増加していることから，社会的にも重大な問題となっています。
E：×
・発疹チフスは，シラミに媒介されるリケッチア症です。発しんチフスは四類感染症に定められており，診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出ます。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 11
次の文は，乳幼児の事故への対応に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①子どもが重症の場合では，他の職員に助けをもとめる前に，まず一人で処置をする。

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

②5 か月位から 2 歳位までの子どもでは手に触れたものは何でも口に入れようとするので，子どもの手の届く範囲から危険なものは取り除いておく。
③風呂にふたをすることや子どもが屋外に勝手に出られないようにすることも事故の防止に効果がある。
④安全な保育環境の整備をはかると同時に安全教育も大切である。
⑤事故や災害で怖い体験をした後に，長期にわたって日常生活に障害を及ぼすことがあり，これをPTSD(心的外傷後ストレス障害)という。

【正答】
①:×○○○○

【「やまだの保育」の解説】
①:×
・緊急時における施設職員の一般的な対応は，①医師に連絡を取り，救急車を呼ぶ。②他の職員に救急車の出動要請をし，自分は子どもに昏睡時の体位を取らせ，見守る。③原則として，独断での人工呼吸などの救急法は避ける，です。したがって，設問の「まず一人で処置をする」は誤りです。
②:○
乳児期後半(5 か月位)-2 歳位まで，なんでも口の中に入れようとするため，危険なものは，手の届くところに，置かないよう注意する必要があります。小さいものであれば，胃に入らず，気道をつまらせてしまう可能性があります。特に，ピーナッツ(豆類)は，注意しなければなりません。気管やのどに入れば，水分を吸収し，大きくなって取れにくくなります。また，それに気付かずに放置すると，重篤な呼吸器障害(気管支炎や肺炎など)をおこすおそれがあります。
3:○
・日本赤十字社 HP の「救急法等の講習 TOP」-「講習の内容」によれば，子どもに起こりやすい事故は，(1)転落・転倒による頭部などのけが(階段・食事用高いす・歩行器・ベビーベッド・ベランダ・滑り台など)，(2)溺水(浴室・洗濯機・トイレ・台所・公園の池・噴水など)，(3)熱傷・感電(アイロン・ストーブ・ポット・コンセント・浴室など)，(4)きず(ドアに挟む・テーブルの角など)，(5)誤飲・誤嚥・窒息(洗剤・おもちゃ・吐乳・布団の圧迫・電池・ボタン・菓子など)，(6) 交通事故(自動車・自転車・ベビーカーなど)，とされています。なお，「家庭内での事故を予防するため，風呂水のためおきをしないなど，常に家庭内を整理整頓し，危険物を避けるようにこころがけ，こどもの周囲の安全管理に気を配ることが大切です。」と記述されています。
4:○
・日本赤十字社 HP の「救急法等の講習 TOP」-「講習の内容」によれば，子どもの事故予防として，(1)環境整備をする，(2)安全教育をする(安全な行動を繰り返し教え、交通のルール、遊びの中でのマナー、道具の安全な使い方を教えるなど、積極的な安全教育が必要)，(3)子どもの運動機能を高める遊びをさせる，が提示されています。

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

5:○
・外傷後ストレス障害（PTSD）は，圧倒的に脅威的・破局的な出来事に遭遇したり暴露されることで起こる重篤なストレス反応で，潜伏期間を置いて，通常 6 か月以内に現れる遅延反応とされています。3 大症状は，フラッシュバック，回避，覚醒度の亢進です。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 12
次の文は，予防接種の副反応に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①百日せき・ジフテリア・破傷風三種混合ワクチン（DPT三種混合ワクチン）の接種では，接種部位が接種翌日から 1 週間後にかけて発赤，腫脹，硬結をきたしやすいが，一般的には心配ないことが多い。
②BCGワクチンの接種では，接種後 10 日くらいしてから針の跡に小さな発赤や水泡ができ，化膿することもあるが，その後小さなかさぶたになって，数か月後～数年後に消失することが多い。
③麻しん・風しん混合ワクチンの接種では，接種後 4 日～2 週間の間に発熱や発疹が数%～20%みられる。
④インフルエンザHAワクチンの接種では，接種部位が赤く腫れる程度で，発熱や頭痛などの副反応は少ない。
⑤水痘ワクチンの接種では，健常者でも発熱や局所の発赤などの副反応がみられやすい。

【正答】
5:○○○○×

【「やまだの保育」の解説】
◎定期接種で発生した副反応の受診ならば，「予防接種健康被害救済制度」の対象となり，医療費や障害児養育年金の給付を受けることができます。
◎「予防接種ガイドライン」-「第 8 副反応（健康被害と対策）」-「（3） 各ワクチンによる副反応」で解説しました。

1:○
・「予防接種のガイドライン」によれば，「ア 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン」において，「DPT ワクチン接種後の副反応は，局所の反応が最も多い。初回接種 1 回目では接種後 7 日目までに約 14.0%，その後接種回数を増すと局所反応は増加し，追加接種後 7 日までに約 41.5%に発赤・腫脹，硬結の局所反応が見られる。局所反応は数日で自然に治まるが，硬結は縮小しながらも数カ月持続することがある。」とされています。
2:○
・「予防接種のガイドライン」によれば，「カ BCG ワクチン」において，「BCG 接種後 10 日頃から個々

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

の針痕部位に小さな発赤や膨隆が生じる。その後同部位が化膿することもある。このような変化は接種後 1 カ月頃で最も強い。」とされています。

3：○

「予防接種のガイドライン」によれば，「ウ　麻しんワクチン」において，「現行のワクチンの中では発熱率の比較的高いワクチンである。ウイルスが体内で増殖する期間の後（接種後 5～14 日後）に 5.3%に 37.5℃以上 38.4℃未満，8.1%に 38.5℃以上の発熱，5.9%に麻しん様の発疹が認められる（健康状況調査報告）。 発熱の持続期間は通常 1～2 日で，発疹は少数の紅斑や丘疹から自然麻しんに近い場合もある。また，発熱に伴う熱性けいれん（約 300 人に 1 人）をきたすことがあり，その他，脳炎・脳症（100～150 万人に 1 人以下），亜急性硬化性全脳炎（SSPE）の発症（100 万人に 0.5～1.0 人）が知られている。ワクチン添加物により接種直後（30 分以内）に接種部位の発赤・腫脹，じんましん，クインケ浮腫，アナフィラキシーショック等のアレルギー症状を呈することがあり，また，接種後 1 日以内に全身，四肢等の一部に発疹（アルザス型アレルギー反応）を生じることがある。」，「エ　風しんワクチン」において，「小児の接種では，接種後 5～14 日に 1.9%に 37.5℃以上 38.4℃未満，2.6%に 38.5℃以上の発熱，発疹が 1.3%，リンパ節腫脹が 0.6%認められる（健康状況調査報告）」とされています。

4：○

「予防接種のガイドライン」によれば，「キ　インフルエンザワクチン」において，「発赤・腫脹，疼痛などの局所反応，発熱，悪寒，頭痛，全身倦怠感などの全身症状があらわれる場合がある。これらの症状は，通常 2～3 日中に消失する。現行ワクチンにおける副反応の発生頻度は，他のワクチンに比しても多くはない。」とされています。

5：×

「予防接種のガイドライン」によると，「コ　水痘ワクチン」において，副反応は，「 健康小児，成人ではほとんど認められない。」とされていますので，設問の「副反応がみられやすい」は誤りです。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 13

次の文は，現在わが国で行われている予防接種に関する記述である。適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

A. 平成 6 年の法改正のより制度化された現行の予防接種制度では，定期予防接種は義務接種になっている。

B. わが国では，経口生ポリオワクチンを生後 3 か月から生後 90 か月にいたるまでの間にある者に接種している。

C. 小児に対するインフルエンザワクチンの接種は定期予防接種であり，集団接種することになっている。

D. 接種時に，「かぜ」などで発熱のある時には，定期予防接種を原則として受けられない。

E. BCGワクチンと経口生ポリオワクチンの接種間隔は2週間で良いことになっている。

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

（組み合わせ）

①AB

②AC

③AD

④BD

⑤CE

【正答】

④:×××○×

【「やまだの保育」の解説】

A:×

・1994 年の予防接種法の改正は，1977 年以来の大改正であり，主たる改正点は，接種形態を「義務接種」から「勧奨接種」に改めたことです。

B:○

・急性灰白髄炎（ポリオ）は，ポリオウィルス（1 型，2 型，3 型）の中枢神経への感染により引き起こされる急性ウィルス感染症で，一般的には，「脊髄性小児麻痺」と呼ばれることも多い病気です。予防接種法では，生後 3 か月から 90 か月までの間に 6 週間以上の間隔をおいて 2 回の接種が定められています。日本は，現在経口生ワクチンを接種していますが，世界の多くの国では，すでに生ワクチンから，不活化ワクチンへと移行している。日本国内での国産不活化ワクチン導入は 2012 年度の見込みとされています。

C:×

・定期予防接種のうち，集団接種は，ポリオとBCGです。インフルエンザは罹患すると普通の風邪に比べ全身症状が強く，肺炎等を合併すると重症化するため，予防接種を勧められていまが，インフルエンザの予防接種は，義務付けられたり強制されるものではありません。

D:○

・せきや鼻水がひどいとき，吐いたり下痢したりしているとき，熱が 37.5℃以上あるときなどは，予防接種はできないとされています。

E:×

・ワクチンの接種間隔は，ポリオが 3 か月以上 7 歳 6 か月未満 6 週間以上あけて 2 回接種，BCGが 3 か月以上 6 か月未満 1 回接種，となっています。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 14

次の文は，乳児に使用するおむつに関する記述である。適切な記述を○，不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

A. 従来から使用されている布おむつは，洗濯して再利用できる。
B. 紙おむつは，尿を比較的多く吸収でき，外出時や睡眠中，または親が忙しい時などにも使用されている。
C. おむつ交換は，授乳の前後や起床時など，また尿や便でおむつが汚れた時などに，行うことが多い。
D. おむつ交換では，汚れている外陰部を濡れたガーゼなどで，きれいに拭き取ろうとすることは良いが，拭きすぎて傷つけたりしないように注意したい。

（組み合わせ）
ABCD
①○○○○
②○○○×
③○○×○
④○×○○
⑤××○○

【正答】
①:○××××

【「やまだの保育」の解説】
◎布おむつの特徴は，①富んだ通気性・吸湿性。②尿や便の状態のみやすさ。③洗濯し，再利用するため，経済的。です。一方，紙おむつの特徴，①尿を多く吸収する。②使い捨てなので忙しいときなど便利。③皮膚への刺激が少ない。です。おむつ交換は，定期的に行う。（授乳の前後・起床時な。ど。1日 10 回程度。），汚れている場合は，濡れたガーゼなどを利用する際，拭きすぎて傷つけないようにします。3 歳ごろ，ほぼ全員昼間のおむつがとれるといわれています。

A:○
・上記の解説の通りです。
B:○
・上記の解説の通りです。
C:○
・上記の解説の通りです。
D:○
・上記の解説の通りです。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 15

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

次の文は，乳幼児の症状や病気，看護に関する記述である。適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

A. 発熱や下痢の症状があり，さらにおう吐があって水分の摂取ができないときには，脱水症の危険があるので医療機関を受診する。
B. けいれんが起こったら，あおむけに寝かせ，唾液やおう吐物が気管に入らないようにする。
C. 鼻出血は鼻をつまんで鼻中隔の方向に約 15 分間圧迫することで止血できる。
D. 発熱時は厚着をさせて，十分に保温できるようにする。
E生後 3 か月をすぎ，自由に寝返りができるようになると，乳幼児突然死症候群（SIDS)の心配がなくなるといわれている。

（組み合わせ）
①AB
②AC
③AD
④BD
⑤CE

【正答】
②：×○×××

【「やまだの保育」の解説】
A：○
・脱水症状の観察の目安として，泣いているときに涙が出ていれば安心でき，涙が出なくなると重症だと判断されます。また，大泉門が腫れているときには，髄膜炎が心配され，脱水症のときにはへこむとされています。
B：×
・設問の「あお向け」は「横向きに」が正しい。ひきつけを起こした場合は，衣服はゆるめて平らな場所に，吐いた物が気道につまらないように横向きに寝かせます。
C：○
・出血を止める救急措置の基本は，「圧迫止血」で，「小鼻の部分」を親指と人差し指でつまんで圧迫し，圧迫時間の目安は 15 分とされています。ティッシュを詰めでも直接的な止血効果はないので勧められていません。また，圧迫止血をする時に詰め物はしないようにします。なお，鼻血が 30 分以上続くような場合は，すぐに病院に行く必要があります（救急車の手配も想定しなければなりません）。
D：×
・大人では，「発熱時は厚着をして，十分に保温できるようにする」が，乳幼児は，体温調節が未熟な

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

ため，厚着をさせたり，室温を過度にあげると，体温が余計上昇してしまうので，厚着はさけます。したがって，設問の記述は誤りです。

E：×

・「乳幼児突然死症候群(SIDS)に関するガイドライン」によれば，乳幼児突然死症候群(SIDS)の定義は，「それまでの健康状態および既往歴からその死亡が予測できず，しかも死亡状況調査および解剖検査によってもその原因が同定されない，原則として 1 歳未満の児に突然の死をもたらした症候群」とされています。また，「外因死の診断には死亡現場の状況および法医学的な証拠を必要とする。外因死の中でも窒息死と診断するためには，体位に関係なく，ベッドの隙間や柵に挟み込まれるなどで頭部が拘束状態となり回避出来なくなっている，などの直接死因を説明しうる睡眠時の物理的状況が必要であり，通常使用している寝具で単にうつぶせという所見だけでは診断されない。また，虐待や殺人などによる意図的な窒息死は乳幼児突然死症候群(SIDS)との鑑別が困難な場合があり，慎重に診断する必要がある。」とされています。したがって，設問の記述は誤りです。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 16

次の文は，わが国の先天異常に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①生まれつき形態や機能の異常がある先天異常は，現在では，出生児全体の約 1%にみられる。
②形態の異常には，視診でわかる外表奇形と，検査しないとわかりにくい内臓奇形とがある。
③平成元年以降では，乳児死亡の原因の第一位は先天異常である。
④先天異常の原因としては，遺伝病，染色体異常，遺伝子の突然変異，子宮内の環境要因などがある。
⑤複数の遺伝子と環境要因の相互作用による多因子遺伝病には，成人の生活習慣病に関連した病気も含まれる。

【正答】

①：×○○○○

【「やまだの保育」の解説】

①：×

・一般に，先天異常は，5 歳までのすべての小児のうち約 7.5%に，新生児の約 3～4%にみられるとされています。

②：○

・奇形には外表奇形（手足欠損，みつくち等外から見てわかるもの）と内臓奇形（心臓の欠損等外からは分らないもの）があります。

③：○

・「2010 年人口動態統計月報年計（概数）の概況」によれば，0 歳児の死因では，第 1 位：先天奇形等，

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

第 2 位:呼吸障害等，第 3 位:乳幼児突然死症候群であり，1～4 歳児では，第 1 位:先天奇形等，第 2 位:不慮の事故，第 3 位:悪性新生物です。

④:○

・ほとんどの先天異常の原因は不明であるが，ある種の遺伝的要因と環境要因は先天異常が発現する可能性を高くすると言われています。

⑤:○

・母親の肥満は神経管閉鎖不全として知られる脊椎の異常などを引き起こす可能性が高くなると言われています。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 17

次の文は，乳幼児のう歯予防に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①子どもは満 1 歳くらいになると，大人のまねをしたがるので，大人の歯みがきをまねさせるとよい。

②1 歳半をめやすに，哺乳瓶の使用は中止し，コップかストローで飲めるようになるとよい。

③フッ化物の歯面塗布は，1 歳 6 か月児歯科健康診査，3 歳児歯科健康診査などで行えるとよい。

④幼児が繊維性食品や硬い弾性食品を食べると，乳歯の表面に傷ができるので，食べない方がよい。

⑤幼児期には，保育所，家庭などでの生活を通して，規則正しい食習慣，また歯みがきの習慣をつけられるとよい。

【正答】

④:○○○×○

【「やまだの保育」の解説】

◎「健康に本 21」において，「幼児期のう蝕予防の目標」は，以下の通りです。

(1)3 歳児におけるう歯のない者の割合の増加

・目標値:3 歳児におけるう歯のない者の割合 80%以上

・基準値:う歯のない者の割合＝3 歳児 59.5%（平成 10 年度 3 歳児歯科健康診査結果）

(2)3 歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合の増加

・目標値: 3 歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合　50%以上

・参考値: フッ化物塗布経験のある者＝3 歳児 39.6%（平成 5 年歯科疾患実態調査）

(3)間食として甘味食品・飲料を 1 日 3 回以上飲食する習慣を持つ者の割合の減少

・参考値: 1 日 3 回以上の間食をする者＝1 歳 6 か月児 29.9%（久保田らによる調査、平成 3 年）

◎う歯（虫歯）予防

・自然と歯が磨かれるように食物繊維多いものを食べる

・砂糖分の過剰摂取を控える。

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

・規則正しい食習慣をつける。
・歯磨きは，毎食後，または1日1回（特に，就寝前）行う。
◎不正咬合予防
・歯と顎を使うために，硬めの食物を食べる。

①：○
・1 歳くらいになったら，大人の歯磨きをまねさせる。歯ぶらしをしゃぶらせ，最後は大人が仕上げるなどして，工夫します。
②：○
・1 歳半を目安に哺乳ビンは中止し，コップかストローにします。なお，哺乳瓶を長く続けていると，前歯が前方にでやすいといったことがあります。指しゃぶり，おしゃぶりも同様ですので，できる範囲で止めさせるようにします。
③：○
・歯面にフッ化物を塗布することにより歯質を強化し，むし歯を予防することによって休養時の口腔の健全な発育が促されます。
④：×
・歯が自然にみがかれるようにするため，食物繊維の多く含まれる食品（野菜や果物など）を食べさせます。そして，不正咬合を予防するため，歯と顎を使うべく，1 歳すぎたら硬めの食物を食べさせます。
⑤：○
・規則正しい食習慣をつけ，できれば毎食後，少なくとも 1 日 1 回（ことに就寝前）は歯みがきをすることが虫歯予防には大切です。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 18
次の文は，小児の内分泌疾患に関する記述である。最も不適切な記述を一つ選びなさい。

①内分泌臓器から血液中に分泌され，極めて微量で特定の効果を発揮するホルモンは，少なすぎ（分泌不全）ても多すぎ（過剰分泌）ても，内分泌疾患を発生させる。
② 特発性の成長ホルモン分泌不全性低身長症は，2～3 歳ころまで，やや小柄ながらも普通に発育することが多いが，その後は体重，身長の伸びが極端に少なくなる。小学校低学年ころまでに発見して，成長ホルモンの皮下注射による治療を長期間続けることによって身長の伸びが期待できる。
③先天性甲状腺機能低下症は通常，新生児マススクリーニングによって発見，治療されているが，甲状腺ホルモン薬を一生服用すること以外，一般的には普通の人と同じ生活ができる。
④甲状腺腫や眼球突出などの症状がみられる甲状腺機能亢進症に対しては，通常，手術または放射線治療を行う。
⑤先天性副腎過形成症は，通常，新生児マススクリーニングによって発見され，不足するホルモン薬を投与して治療する。

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

【正答】不適切問題につき，全員正解となった。
（理由）「選択肢③が曖昧な表現であることから，受験者全員を正解とします。」

【「やまだの保育」の解説】
◎内分泌臓器（甲状腺，副甲状腺，副腎，下垂体，性腺など）から血液中に分泌され，体のさまざまなところに作用を及ぼす物質の総称を「ホルモン」といい，これが分泌されることを「内分泌」といいます。

①：○
・「成長ホルモン分泌不全性低身長症」は，何らかの原因で脳下垂体 から分泌される成長 ホルモンが不足して身長が伸びない病気であるが，成長 ホルモンが多すぎると「末端肥大症」になります。また，バセドー病（甲状腺機能亢進症）は，甲状腺ホルモンが出すぎる病気です。設問の通り，少なすぎ（分泌不全）ても多すぎ（過剰分泌）ても，内分泌疾患を発生させます。
②：○
・下垂体前葉から分泌される成長ホルモンの分泌低下によって起こる低身長症ですが，原因としては，視床下部や下垂体が脳腫瘍などにより障害を受けている器質性と原因のはっきりしない特発性があるとされます。多くは特発性ですが，その多くは骨盤位分娩など分娩時の異常があるとされ，この分娩時の障害が成因として関与していると考えられています。これも，
③：「表現が曖昧」とされた
・（以下は「やまだの保育」の解説）
・おそらく，作問者は「クレチン症」を想定して「先天性甲状腺機能低下症」と設問で表記したものと思われます。試験直後から，問 7 と同様に，「不適切問題ではないか」と話題になっていました。
・「先天性甲状腺機能低下症マススクリーニングガイドライン（1998 年版）」では，クレチン症と一過性甲状腺機能低下症が示されています。クレチン症の場合であれば，設問の記述は正しい。
④：×
甲状腺機能亢進症は，甲状腺ホルモンの過剰分泌があり，甲状腺腫，眼球突出，食欲亢進を伴った体重減少，手指振戦，多汗，頻脈，感情不安定，落ち着きのなさなどの症状を示します。治療は，通常，抗甲状腺薬の薬物療法が行われますが，手術や放射性ヨード内服療法（RI 療法）などの治療法が行われることもあります。
⑤：○
・先天性副腎過形成症は，副腎において生命維持に重要な働きをする副腎皮質ホルモン「コルチゾール」を作ることができないために発症する病気といわれています。薬をきちんと飲み続ければ，成長や発達に大きな遅れはみられません。
【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 19
次の文は，B型肝炎に関する記述である。不適切な記述の組み合わせを一つ選びなさい。

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

A. B型肝炎ウイルスのHBs抗原とHBe抗原には，ともに感染性がある。
B. B型肝炎母子感染防止事業が昭和 60 年より実施されている。
C. B型肝炎ウイルスはグルコン酸クロルヘキシジンで不活化できる。
D. B型肝炎ウイルス・キャリア妊婦から生まれた新生児に対しては，まず第一に出産後 48 時間以内に抗HBヒト免疫グロブリン（HBIG）の注射が行われている。
E　B型肝炎ウイルス・キャリアの母親の母乳中には，B型肝炎ウイルスが含まれていることがある。

（組み合わせ）
①AB
②AC
③AD
④BD
⑤CE

【正答】
②×○×××

【「やまだの保育」の解説】
A：×
・HBs 抗原は，陽性であれば HBV 感染（体内にウイルスがいる状態）を示し，ウイルスに感染しているがその 90%は肝障害がなく（無症候性キャリア），10%が肝臓を障害されて慢性肝炎や肝硬変や肝がんになっていると言われています。また，HBe 抗原は，感染力が非常に強。HBe抗原陽性の妊婦から生まれた乳児は，ほぼ 100%感染してキャリアになると言われています。
B：○
・1985 年 6 月から，厚生省（当時）は，「B型肝炎母子感染防止事業」を公費負担にて実施しています。まず，全国の妊婦の HBs 抗原検査を行い，陽性の場合には HBe 抗原検査を行いました。その後，HBe 抗原陽性 HBs 抗原陽性妊婦から出生した児に対し，1986 年 1 月以降感染防御処置が行われてきました。
C：×
・「グルコン酸クロルヘキシジン」は，生体消毒薬であり，B型肝炎ウイルスの不活性化には関係ありません。
・また，「B型肝炎について（一般的なQ＆A）平成 20 年 4 月改訂（改訂第 3 版）」によると，「Q57：B 型肝炎ウイルス陽性の血液が手指，床，器具などに付着した時は消毒用アルコール（酒精綿）で拭き取ればよいですか？」において，不活性化に有効と一部の研究でいわれている消毒用アルコールに関する記述があります。「消毒用アルコール（酒精綿）による拭き取りは，HBV の感染予防のためには有

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

効ではないことに留意しておくことが大切です。なお，血液が付着した手指などに外傷がない場合には，石けんを用いて流水で洗い流しておくだけで十分です。」とされています。

D：○

・「B型肝炎について（一般的なQ＆A）平成 20 年 4 月改訂（改訂第 3 版）」によると，「Q34：B 型肝炎ウイルスの母子感染予防は，どのように行うのですか？」において，「HBsヒト免疫グロブリン（HBIG）は，出生後できる限り早期に（遅くとも 48 時間以内）に筋注することが必要です。」とされています。

E：○

・「B型肝炎について（一般的なQ＆A）平成 20 年 4 月改訂（改訂第 3 版）」によると，「Q35：B型肝炎ウイルス持続感染者（HBV キャリア）の母親の授乳には注意が必要ですか？」において，「母親がB型肝炎ウイルス持続感染者（HBV キャリア）であっても，生まれた子供に対して HBV（B 型肝炎ウイルス）の母子感染予防が適切に行われている限り，特に授乳を制限する必要はありません。予防のために投与した高力価 HBsヒト免疫グロブリン（HBIG）の投与と，B型肝炎ワクチン（HB ワクチン）の接種により，子供には HBV の感染を防御する能力が与えられているからです。ただし，この場合でも，母親の乳首に明らかな傷があったり，出血している場合には，感染を防御できる量を上回るHBV が口腔の粘膜を介して子供の血液中に入り，感染する恐れがありますので，傷などが治るまでの間の授乳は控えてください。」から，設問は正しい。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

問 20

次の【症例】を読んで，【設問】に答えなさい。

【症例】 3 歳，男児

某月某日，鼻汁，咳嗽など「かぜ」のような症状が出はじめた。その後，次第に咳が強くなってきた。約 4 週間たってから，咳がはげしくなり，連続的に咳き込み，そのあと息を吸うときにフューという音が出た。咳の発作は夜間に強く，咳き込みに伴いおう吐もみられた。また，チアノーゼ，顔面紅潮，眼瞼浮腫などもみられた。

【設問】この患児の診断名を一つ選びなさい。

①喘息性気管支炎
②百日咳
③マイコプラズマ肺炎
④「かぜ」症候群
⑤肺結核

【正答】

②：×○×××

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.

【「やまだの保育」の解説】

①：×

・喘息性気管支炎は喘息とは異なる病気で，痰が原因で，いつまでも咳が続いたり，ゼロゼロという咽喉が鳴ったりする症状が出ます。

②：○

・母胎からの免疫抗体をもっているから半年未満の乳児，特に 2～3 か月の乳児がかぜをひくのはめずらしいと言われるが，早期乳児がかぜ症状を示したら百日咳を疑う必要があり，無呼吸発作や呼吸困難を起こしやすく生命に関わることがあるとされています。大変な呼吸症状を示すが，発熱・高熱を伴うことは極めてまれです。

③：×

・マイコプラズマ肺炎とは，咳が長く続き，夜間や早朝にひどなるといった症状が出す。また，あわせて，発熱，のどの痛み，頭痛，たん，鼻症状などもみられます。肺炎にしては一般状態もよく，元気なため，診断が遅れることがあります。

④：×

・かぜ症候群の主な症状は，発熱，咳，くしゃみ，鼻水，たんなどで，時にはおう吐や下痢をともなうことがあります。こじらせると，中耳炎や肺炎になることもあります。

⑤：×

・肺結核の主な症状は，微熱，咳，たん，血たん，発汗，呼吸困難，体重減少，食欲不振などです。はじめのうちは激しい症状もなく，どれも，結核だけの特異的な症状ではないので，判断が難しいと言われます。2 週間以上続く咳や，微熱，急激な体重減少などが見られたら，肺結核を疑い，呼吸器科で胸の検査を受けた方がよいとされています。

【Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.】

Copyright(C) 2011 Takako Yamada. All rights reserved.